

英語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3 2/4 2/5 共通仕様	第1問	空所補充問題(文法・語法, 熟語)	やや易
	第2問	整序英作文問題(文法・語法, 熟語)	やや易
	第3問	対話文完成問題	標準
	第4問	会話文および広告読解問題	標準
	第5問	長文読解問題	標準
	第6問	長文読解問題	標準

椋山女学園大学の入試問題では、3日程から試験日を選ぶことができるうえ、最大3日程全て受験可能である。また、試験当日に任意の2科目を選択して受験する形式をとり、試験時間は2科目併せて連続した120分となっている。したがって、各科目にかかるバランスにもよるが、60分程度が解答時間の目安となる。3日程を通してすべてマークシート方式であり、大問構成は、文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの対話文完成問題1題、長めの会話文読解問題と広告読解問題によって構成された大問が1題、長文読解問題2題の計6題から構成されており、小問数は40問に統一されている。

第1問は、単文中の空所に適切な語句を補充する形式である。品詞の識別や時制など、文法の基本から、倒置や分詞構文など、高等学校で履修する文法分野や語法まで、幅広い分野から出題されている。第2問は整序英作文問題で、5つの選択肢を適切な語順に並べかえる形式である。日本語訳は与えられておらず、英文の文法構造を的確に分析しつつ文意を確認する必要があるが、語彙や文法レベルを考慮すると、高等学校の学習をきちんと修了していれば正解するのは難くない。第3問は、2人による1～1.5往復の会話内に設けられた空所を補う形式である。会話特有の表現や知識を問うことよりも、発話意図や対話の文脈把握ができていくかを問う問題が主となっている。特に、おおざっぱに文脈を把握すると、正解を的確に導くことが難しいように作られているため、会話の状況をしっかりと把握することが必要である。第4問では、長めの会話文読解問題と、英語で書かれた広告を題材とした問題の2つの形式が出題されている。会話文読解問題は、日程によって多少その構成は異なるが、空所への適語(句)補充、下線部の適意選択、内容に関する発問、会話の内容からの推測を促す問題を主軸に構成されている。それぞれの問題で与えられている選択肢はさほど難しくなく、基本的な会話表現と文法事項を使った文章であるが、長めの会話を読解し、その状況や発言者の意図などを正確に把握する力が必要となる。広告読解問題は、内容に関する発問が中心であるが、広告の内容に沿わない情報を指摘する問題がある。ここでは選択肢ごとに広告内の情報を一つひとつ確認した方が良いので、解答にはある程度の時間を要する。第5・6問は、入試標準レベル程度の語彙や表現を用いた長文読解問題である。空所補充問題、下線部の意味を問う問題、内容に関する発問、タイトル選択などの問題を用いて、文章の読解力と理解度を測っている。なお、語注が付されていないため、教科書レベルよりも一段階上の語彙力を持っていることが望ましい。

英語

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

全体的な難易度は概ね標準であり、高校3年間で学習する基本事項（教科書レベル）を完璧に習得していることが求められている。ただし、試験時間を60分と想定した場合、読むべき英語の量と問題数を考慮すると、効率よく正答する訓練をしっかりと積んでおくことが必要である。これを踏まえ、入試を突破するための学習ポイントをまとめてみよう。

●高等学校で学習すべきことは完璧にしておこう

試験全体を通して、高等学校での学習が完璧に習得できていることが求められている。第1・2問では、語彙、文法・語法において、高等学校で最低限習得しておきたいものばかりであるため、全問正解を目指したい。得意・不得意にかかわらず、まずは高校で使ったテキストをもう一度やり直すことから始めてほしい。どれほど英語が得意であっても、何かしらの取りこぼしがあるはずだ。いずれは、入試入門～標準レベルの文法・語法問題集や整序英作文問題集を演習すべきではあるが、教科書レベルの問題で間違えることのない実力が求められているわけであるから、問題演習を行う前に完璧な土台固めを行うことが先決である。

●単語・熟語は、フレーズや文単位で覚えたり、文脈から判断したりする習慣をつけよう

第5・6問には語注が付されていないにもかかわらず、教科書には登場しないであろう語（句）が使われていることがある。では、上級レベルの単語集を習得しなければならないかということ、そうではない。そのような難しい語句は、前後の内容から推測できるように英文が作られているからであるが、その時にしっかりとした基本的な単語・熟語力が必要になってくる。意味を知っているだけではなく、その単語や熟語が英文の中でどのように使われているかにも気を配っておくことで、語彙だけでなく、文脈を通した理解へとつながるのである。単語・熟語帳の例文も一緒に覚えたり、見知った単語や熟語から、未知の表現を類推したりすることを習慣化して、能動的に単語・熟語を使えるようにしておくが良い。

●英語に日々触れられるように、生活の仕方を工夫しよう

想定される試験時間内にあたるべき英語の量が多いため、英文一つひとつを訳していくようでは、時間内に正答することは非常に難しい。そのため、基本的な英語の表現を見たら、その意味内容が瞬時に理解できるようにしておきたい。そのためにも、多くの英語表現の基本である高校で使用したテキストを、1年時から順に何度も読み直し、教科書レベルの表現であれば、その意味がすぐに分かるようにしておきたい。文字情報だけでなく、付随しているCDなどの音声媒体なども活用し、目と耳の両方から刺激を加えて、処理速度をさらに上げると良い。難しいと言われている文章は、その長さが長いことや、語彙レベルが高いことがほとんどであり、大半は、教科書で出会った英文の型を踏襲している。徹底した基礎固めが、結局は実力アップのための近道なのである。その基礎固めの後に、問題演習やパラグラフ・リーディングなどの読解技術の習得へと進むことで、スムーズに読解能力を発展させていくことができる。文章読解に慣れるためには、良質な教科書の文章とその音声素材を活用して、基本を叩き込んでおくことが大切である。長期的な計画を立てて、継続して取り組もう。

●過去出題された問題を分析して、戦略を立て、効率の良い対策をしよう

試験に臨むには、やはり戦略を立てることが必要になってくるが、そのためには、挑もうとする試験を分析することが必要である。1ヵ年分の過去問を解きつつ、それぞれの大問（第4問は会話文読解問題と広告読解問題それぞれ）にかかった時間をメモし、時間がかかりすぎている大問をチェックしておこう。それから、各大問において、「自分は何ができていて、何ができていないのか」を書き出せるだけ書き出しておこう。それらのメモすべてが、今まで挙げってきた「基礎力を完璧にする」時に気を付けるべきポイントとなる。このような分析を基に、弱点の克服を行い、効率よく正答するために必要なことを習得しておけば、確実な合格への実力養成も効率よく行えるであろう。